様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年 １０ 月　 １ 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４７９２３８７

研究課題名（和文）中絶医療が女性のリプロダクティブ・ヘルスに及ぼす影響

研究課題名（英文）Abortion method and associate factor with reproductive health

研究代表者
水野　真希（Mizuno, Maki）

金沢大学・保健学系・助教

研究者番号：６０５４７１８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：科研交付内定後、平成24年度と25年度は妊娠出産、育児休暇のため、研究を中断し活動ができない状況であった。そのため平成26年度に研究を本格的に開始し、調査施設に調査協力を依頼。研究協力者と数回に及ぶミーティングを実施し、計画書を作成。また、アメリカで出版されている中絶ケアガイドライン(教科書）の翻訳に向けて交渉し、次年度翻訳に向けて準備を開始した。出産による2年間の補助事業期間延長を申請し、平成28年度末までの研究延長予定で準備をすすめていたが、大学事務による申請手続きトラブルにより期間延長できず、研究中止となった。

研究成果の概要（英文）：At 2014 and 2015, researcher didn't this research due to maternity leave. Last year, I had meeting with a research collaborator and research assistants. I also had prepared to translate "abortion care"into Japanese. However, I will continualy do this research next year, I had to finish due to encounter trouble by ofiice workers of the university.

研究分野：女性小児看護

キーワード：人工妊娠中絶　看護教育　看護

１．研究開始当初の背景

現代医療において医療の質と患者中心主義は重要な指針であり、産婦人科医療は女性のリプロダクティブ・ヘルス向上を使命としている。しかし、日本の産婦人科医療体制は、女性の生殖器という医療者側の解剖学的な視点に重点が置かれ、それに該当するすべての女性が産婦人科に集められている。不妊、出産、人工妊娠中絶、癌や性感染症など女性の背景は全く異なり、女性を中心とした医療体制には程遠い現状がある。先行研究では、人工妊娠中絶を体験した人は、自責の念や悲嘆、罪悪感など心理的苦痛を抱いており、長期間持続するとの報告もある。また、中絶をする女性の背景には、DV被害者や虐待被害者、若年妊娠や未婚の女性に多く、個々の背景に応じた専門的な支援を継続的に提供していく必要がある。

しかし、その一方で、中絶ケアに携わる医療者は、女性の権利と胎児の生きる権利の狭間で苦悩を抱いており、また背景の複雑な女性への接し方に戸惑いを抱き、女性との関わりを避ける行動や、職業観への困惑から自分の職業に自信が持てないというような苦悩を抱えていることも報告されている。このような医療者たちから、ケアを提供された女性たちは中絶という体験をどのように受け止め、自身の健康向上に向けた取り組みへと還元されているのかどうか明らかにすることが、ケアの評価及び向上には必要である。

２．研究の目的

本研究では、中絶ケアを提供された女性の体験及びその後の健康行動への影響に焦点を当て、ケアの評価及び向上に向けた打開策を模索し中絶医療体制の変革への方向性を探ることを目的とする。

３．研究の方法

本研究の計画・方法については図１、図２のとおりである。

目標１：中絶ケアが女性に及ぼす影響

日本の中絶ケアの質改善に向けた第一歩として現在の産婦人科で提供されているケアが女性たちに及ぼす影響を明らかにするため、産婦人科での女性の体験や女性たちのニーズ、およびその後の自分の健康や生き方に対する考えについて明らかにしていく。

調査方法

1. 国内外の文献調査より、中絶体験や医療機関からのケア提供体験が女性に及ぼす影響について明らかにする。また国内外のリプロダクティブ・ヘルスを専門としている研究者から助言をもらいながら、中絶経験のある女性10名からインタビューを行い、体験の詳細について把握していく。分析は質的帰納的分析を行う。

2. 1の結果をもとに質問紙を作成。作成に当たり、文献及び他の研究者から助言を受けた。中絶経験のある女性100名に無記名自記筆質問紙による調査を行う。調査項目：中絶体験、実際の医療者の態度、中絶処置に対する思い、医療者からの指導が今後の健康管理にどのような影響を及ぼしているのかなど

目標２：アメリカの中絶クリニック訪問しケアの実態と課題を調査

アメリカのカリフォルニア大学付属病院を訪問し、中絶クリニックで提供されているケア内容やガイドラインの活用方法、ケア体制を調査し、女性のニーズに応じたケアの実態と課題を明らかにしていく。

調査方法：1. 米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校Center for Reproductive Health（サンフランシスコ市）訪問。中絶ケアガイドライン作成した研究者であるDianaG.FosterとAmy Levi と会談し米国の中絶ケアの実態と課題をインタビューしてくる。

2. 中絶クリニックを訪問し、ケア内容やケア体制、医療者の教育体制や支援体制と課題を医療者からインタビューして来る。3. 中絶経験のある女性からケアに対する感想や医療者へのニーズなどインタビューして来る。

目標３：教科書やガイドラインの翻訳
アメリカの看護系大学で現在広く中絶ケア教育に使用されている教科書及びケアガイドラインを翻訳し、教育機関や臨床でどのように活用されているのか明らかにしていく。また、日本の教育者や医療従事者への調査結果などから日本の中絶を巡る文化的、社会的特性や、教育者や医療従事者が囚われている意識の内実を明らかにし、日本での活用に対する課題を明らかにする。
科研交付後2年間は、妊娠出産により研究を中断。平成26年度に研究を本格的に開始した。沖縄、東京、石川の5つの産婦人科医療機関より調査協力が得られた。またアメリカのカリフォルニア大学が出版する教科書「Providing abortion care」の翻訳について承諾が得られ、翻訳を開始し始めた。
この教科書は、妊娠初期の人工妊娠中絶ケアについて、妊娠した女性が医療機関を訪れてからの関わり方や、カウンセリングの方法、処置内容や処置中のケアの実際、処置後の女性との継続的な関わり方そして具体的な避妊指導について詳細に記載され、学生が一つ一つの項目に対してトレーニングできるような構成になっている。日本には、このようなケアガイドラインは存在しておらず、それぞれの医療機関や医療者の考えに委ねられていたが、統一したケア提供のためには、この本の出版が必須であり、教育やケア改善の一助となりうると考える。
　大学事務による事務的トラブルで、研究を平成26年度で中断せざるをえないが、今後も継続して実施していく。

図１．研究計画・方法

平成 24 年度
○看護者が主体の中絶医療・教育の実態調査及び課題
・海外のクリニック及び教育機関での調査
・国内外の文献調査
・学会での情報収集

平成 25 年度
○教育プログラム及び教材の開発
・国内外の文献調査
・学会で使用されている教材の翻訳
・学会などでの情報収集

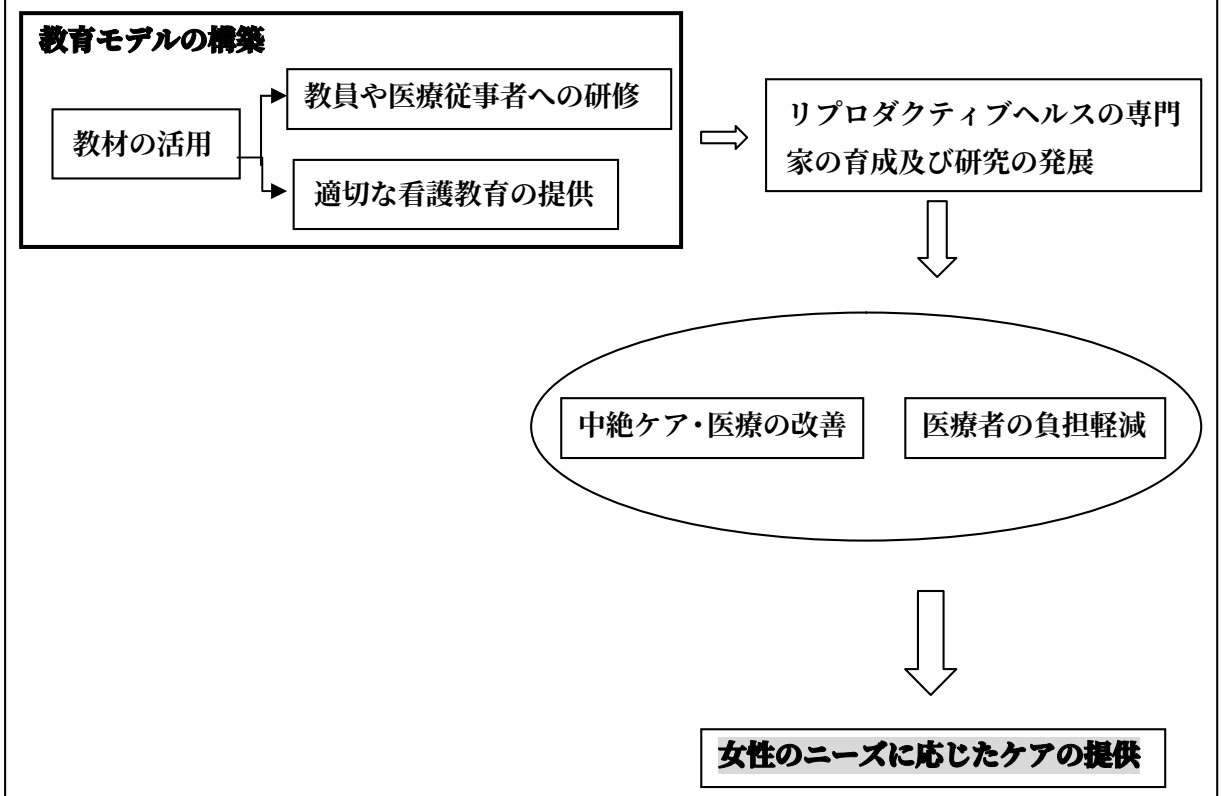
⇩

既存の教育モデルを洗練

⇩

平成 26 年度　　新たなモデル構築へ
・教育・研究・医療者への聞き取り調査
・学会での情報収集
・学会シンポジウムでの議論

図２．研究の方向性



４．研究成果
　上記のとおり

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
　なし

６．研究組織
(1)研究代表者
　水野　真希（MIZUNO, Maki）
　金沢大学・保健学系・助教
　研究者番号：60547181

(2)研究分担者
　なし

(3)連携研究者
　なし